

平成26年度

事業レポート

片瀬地区社会福祉協議会

目 次

片瀬のあゆみ	1
片瀬地区の概要	2
事業方針	3～4
活動報告	5～22
【総務部会】	5～11
1. 研修関係	5
2. 福祉講演会	6
3. 高齢者介護にかかわる支援	7
4. 介護予防に係る取り組み	9
5. 障がいの理解を拓げる取り組み	10～11
【広報部会】	12～13
1. 広報紙社協だより「しあわせ」の発行	12
2. 研修会	13
3. 学習会	13
【事業部会】	14～16
1. 散策事業～柿狩り&紅葉を眺める会～	14
2. 児童交流会	15
3. 片瀬地区ふれあいまつりへの出店～藤沢炒麺～	16
【ふれあい部会】	17～19
1. 地区敬老会	17
2. 敬老事業	17
3. 福祉バザー・掘り出し市	18
4. ふれあいお楽しみ事業	19
【その他の事業】	20～25
1. あり方検討会	20
2. かたせ・にこにこ広場	24
3. 支援活動（福島県大熊町へ）	24
4. 日赤社資の募集	24
5. 赤い羽根共同募金の推進	25
6. 年末助け合い募金運動の推進	25
7. ねたきり高齢者見舞品	25
8. 車椅子貸し出し	25
9. 片瀬地区新年賀詞交歓会	25

片瀬のあゆみ

片瀬は、片瀬丘陵を背にし、西南面を境川をもって鶴沼と分かれ、丘陵の北端から前面に沿ってその南端までの間を細長く伸びた地形である。片瀬丘陵部を除いた全地域が砂質土の低平地である。

片瀬は、「固瀬」または、「潟瀬」とも書く。片瀬川は境川の片瀬地区を貫流する部分に名付けられたものである。

東西1.42km、南北4.29km、面積は3.02km²であり、昭和22年（1947年）4月1日藤沢市に合併した。当時、田畑は北部に多く、宅地は南部の腰越寄りに集中していた。

江の島は、片瀬の南海上に位置し、東は遠く三浦半島を望み、西ははるかに伊豆半島を眺めることができる、海拔60.4m、周囲約2,500m、面積約0.18km²の直角三角形に近い陸繁島である。

大正12年の関東大震災の際には、約1mも隆起したため、海中にあった蛸房が露出し、その殻が白く岩石面に付着している。

鎌倉時代には、固瀬駅が置かれた。鎌倉幕府が滅んだ後は、北条時代となり玉縄城の管轄におかれた。北条氏が滅んだ後は、天正18年（1590年）徳川家康の御料地となった。その後、成瀬、大久保、松平、井伊、細川氏と所轄を変え、最後は堀田鴻之丞が知行した。

江戸時代末期には、民戸は165あって、その多くは農業の間に漁釣を行い、それを藤沢宿にひさいで生活に資した。

片瀬と江の島とは、古くからいつも関係を共にしている。それは、地理的な理由と経済的な面からきている。ことに近世にいたり、江の島が景勝の地として知られ、江の島弁財天の信仰が高まって、参詣・遊覧者が多くなつてのちは、片瀬村民の生活の大部分は、そうした人たちを相手にした収入によって支えられていたと言っても過言ではない。

その故をもつてか、明治維新から昭和22年（1947年）藤沢市に合併するまで数度行政上の変化を辿ったが、常にその所轄・所属を共にした。

明治元年（1868年）11月まで菰山県に属し、同年12月神奈川県所轄、明治4年（1871年）11月区制実施により第16大区第5小区に入り、片瀬江の島、手広、川名、腰越、津村などの旧津村郷が同小区に属した。

その後、区制の廃止（明治11年）、組合役場制などの行政措置を経て、明治21年（1888年）4月、町村制の実施に伴い、翌年4月30日に片瀬、江の島両村は合併して川口村となった。次いで昭和8年（1933年）4月1日、町制をしいて片瀬町と改め、日華事変、太平洋戦争を経て、昭和22年4月1日に藤沢市に合併した。当時（2月1日現在）の人口10,555人、戸数2,315戸であった。

片瀬地区の概要

区 分	市 全 体	片 瀬 地 区
面 積	69.57km ²	3.02km ²
人 口	423,435人	20,676人
世 帯 数	187,938世帯	9,395世帯
人 口 密 度	6,086/平方キロ	6,846/平方キロ
高 齢 者 数	97,214人	5,654人
高 齢 化 率	22.96%	27.35%
在宅ねたきり高齢者	150人	14人
ひとり暮らし高齢者	12,278人	434人

2015年4月1日現在

[事業方針]

平成26年5月18日
片瀬地区社会福祉協議会 平成26年度 事業方針

全国的な高齢化が急速に進む中、片瀬地区は、4人に1人が65歳以上の高齢者という市内で最も高齢化率（65歳以上が占める割合）が高い地域であると同時に、認知症・障がい者・ひとり暮らしの高齢者の増加、親一人子一人の世帯が増えるなど、家族構成も大きく変化してきています。これらの現状を踏まえ、孤立することのない、つながりのある地域社会を目指して、片瀬地区社会福祉協議会は、次のとおり事業を推進してまいります。

1. 地域のふれあい、ネットワークづくりの推進

高齢者世帯の増加や、核家族化が進んでいる中、意識的かつ日常的に人々の社会的なつながりを増やしていくため、外出機会の提供、地域の人々とふれあう機会の創出に取り組みます。

- 地区敬老会、ふれあいお楽しみ会（食事会）等の開催
- 果実狩り、散策事業の実施
- 広報紙の発行

2. 高齢化に伴う介護予防の取り組み、介護者への支援

高齢化社会で自分らしく元気な日常生活を送るため、地域で活動されているサークルや専門家の協力を得て、介護予防（認知症予防）の取り組みを進めます。また同時に、介護にあたる家族（介護者）の支援にも取り組みます。

- 福祉講演会の開催
- 家族介護者の集い、介護予防講習会の開催

3. 高齢化社会でも安心して暮らせる地域づくりの検討

現行の介護保険制度でカバーできない、日常生活の不便を地域でどのように支えあうのか、片瀬地区での生活支援の現状を踏まえ、他地区の社協の取り組みを学び、今後のあり方の検討を進めます。

- 理事・評議員による先進地区への視察及び検討

4. 次世代を担う子ども達とのつながり

次世代を担う子ども達を地域で育てていく取り組みとして、片瀬小学校との連携や、ボランティアセンターを拠点とした行事の実施を通じて、温かみのある地域づくりを進めます。

○児童との交流会の実施

○ボランティアセンター「かたせ・にこにこ広場」への支援

5. 障がい者福祉の推進

身体、知的、精神、発達等の障がいのある人も、地域の一員としてともに生きる地域づくりを進めます。

○障がいに対する理解を深めるために研修会、視察会の開催

6. これからの片瀬地区社協の役割についての検討

介護保険制度の改正など、社会変化に対応できるよう、現在の組織や事業を見直し、地区社協としての役割について検討します。

○検討会を立ち上げ、片瀬地区社協の基本的な課題と事業、財政、それに必要な体制のあり方などを検討します。

○理事会では、その試案をもとに具体化を検討し、次年度の総会に提案できるようにします。

[活動報告]

【総務部会】

1. 研修関係

【理事研修】

と き 平成26年6月23日(月) 午前9時15分～

ところ 児童養護施設 白十字会 林間学校
自立支援ホーム 白十字会 湘南つばさの家

参加者 9人

行 程 9:15 集合 片瀬消防署第2分団前

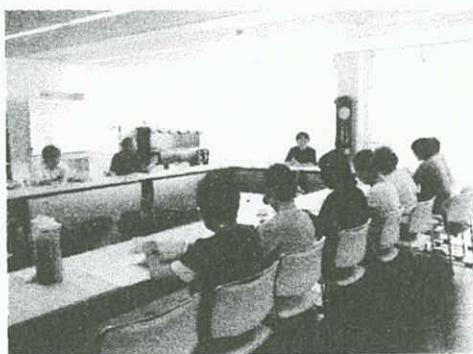
9:30 出発

10:00 児童養護施設・林間学校

11:30 自立支援ホーム 湘南つばさの家

12:30 着・解散 消防署片瀬第2分団前

内 容 児童養護施設 林間学校と自立支援ホーム 湘南つばさの家の施設概要説明を受け、見学しました。自立支援ホーム 湘南つばさの家は児童養護施設退所者が最長20歳まで家庭的環境で生活しながら、就労自立するのを支援するところで、民家を借りて運営されています。ホーム長 前川礼彦氏により、児童養護の現状の課題、18歳で養護施設を出るということの現実、法人が独自に取り組んでいる自立支援ホームの内容をうかがいました。子どもの貧困、虐待などの話と共に、職員は利用者と相談できる関係性を作り、支援しているとのことでした。視察を終え、地域での支援者が欲しい、就労先の開拓や、ホームの支援者が欲しいとの訴えに対して、何らかの支援をしたい、地域に実際を知って頂くため講演をしていただいてはどうかとの意見が理事から出され、福祉講演会の企画に活かされました。



【評議員研修】

評議員研修、福祉講演会については、第1回部会の検討で、改正介護保険の動向を軸に据えて検討することにしました。しかしながら、秋口になった段階の行政の準備状況から、今期の研修の主題とするのは困難と判断しました。

同時に、100人の評議員のうち約20人しか参加できない従来の視察型研修も再考が必要であり、評議員研修を無理に企画することを取りやめました。

定例化されてきた評議員研修を実施できないという申し訳ない結果となりましたが、今後の部会活動、研修の方向性と合わせて検討が必要と思われます。

2. 福祉講演会

【福祉講演会】

と き 平成26年11月15日(土) 午前

ところ 片瀬市民センター ホール

参加者 47人

内 容 「困難な環境に置かれた若者の自立を応援する仕組み作り」をテーマとして、前川礼彦氏(自立支援ホーム「湘南つばさの家」ホーム長)を講師に招いて、お話をうかがいました(民児協、青少協、支援フォーラム、片瀬学園の後援)。

年度当初の介護保険をめぐる主題設定の計画を変更して、児童養護施設を出て以降の就労自立の現状と課題を知り、地域に求められることを考える機会としました。

子育て中のお母さんへの支援、若者の居場所づくり、子ども達とのつながりを作ること、生きる意欲を持てるような支援など、今後の片瀬地区社協の活動に生かすべき意見や感想が出されました。

結果として、昨年度の子育て支援の機会としての映画会に続き、若者の支援を考える機会になりました。



3. 高齢者介護にかかわる支援

【認知症サポーター養成講座】

と き 平成26年10月8日（水）午前

ところ 片瀬市民センター ホール

参加者 21人

従事者 6人

内 容 講師に鈴木克典氏（本町ファミリークリニック地域連携室長）を招いて開催しました。

参加者からは、街頭で認知症者に声を掛けた経験や、家族への対応で苦労している発言がありました。参加者によっては、認知症の基礎的な理解をしたい、家族への実践的な対応を知りたい、個別の相談に乗ってほしいなどなど、参加の動機は様々です。家族の交流の場を設けてほしいという提案も出されました。

認知症について理解を深めるのは地域の課題であり、地域全体に問題を投げかけることが必要であり、学校教育の場でも講座を開くべきではないか、福祉講演会の主題にしてはどうかなど、意見が出されました。どのように理解を広げる機会を設けるのか、受講した人の力を地域に活かす工夫など、地域包括支援センターなどへの問題提起も必要と思われます。



【家族を介護している人のつどい】

内 容 家族介護者が集まって悩みなどを話し合い、ストレスの発散、専門職の支援を受ける機会として、片瀬地区社協は場の提供というスタンスで、片瀬地区地域包括支援センター、社会福祉法人上村鵠生会との共催で実施してきました。延べ4回、片瀬市民センターのホールにて実施。片瀬地区地域包括支援センター、社会福祉法人上村鵠生会の相談員が同席しました。

（深刻な問題であっても、お互いに介護者同士であり、余裕を持って見つめ直すことで、共感と笑い声が生まれ、参考意見やアドバイスも出されています。「知り合いによびかけることができる」、「専門職の人に相談できるので助かる」、「地域の安心感につながる」との感想がでています。

この集いを継続しつつ、片瀬地区に関わりのあるケアマネ事業所に対して、継続的に集いをお知らせし、支援の必要な家族に参加を呼び掛けていただくことも、今後の大きな課題です。

第1回 と き 平成26年7月2日（水）

参加者 3名

第2回 と き 平成26年9月3日（水）

参加者 4名

第3回 と き 平成26年11月5日（水）

参加者 0名

第4回 と き 平成27年1月28日（火）

参加者 5名



4. 介護予防に係る取り組み

【めざせ！元気シニア！】

内 容 音読と健康体操、軽食の集い
介護予防として位置付けて、片瀬市民センター ホールにて4回実施。
9月30日は講師都合により、前日に中止。
体を動かしたい、健康でありたいとの思いから参加される方が多く
リハビリ、介護の合間に参加される方もいらっしゃいました。
繰り返し参加される方が増えていますので、持続的なつながりを大切
にしつつ、さらに参加者を広げる工夫が今後必要です。
また、開催回数を増やし、定例化することも求められています。
講師陣に、レクレーション関係者をお招きしてきましたが、今年は更
に公民館登録サークルの協力を得たこと、石井千恵氏（藤沢病院福祉
企画調査室長）の系統的な健康体操の指導を頂いたことは、今後に生
かせると思われます。

- | | | |
|-----|-----|----------------|
| 第1回 | と き | 平成26年6月9日（月） |
| | 参加者 | 20名 |
| | 従事者 | 12名 |
| | 内 容 | ツボレッチ体操 |
| 第2回 | と き | 平成26年9月30日（火） |
| | 参加者 | 講師都合の為中止 |
| | 内 容 | ツボレッチ体操 |
| 第3回 | と き | 平成26年11月19日（水） |
| | 参加者 | 9名 |
| | 従事者 | 9名 |
| | 内 容 | 健康体操と音読 |
| 第4回 | と き | 平成27年1月26日（月） |
| | 参加者 | 14名 |
| | 従事者 | 10名 |
| | 内 容 | 健康体操と朗読 |
| 第5回 | と き | 平成27年3月9日（月） |
| | 参加者 | 15名 |
| | 従事者 | 9名 |
| | 内 容 | 健康体操と音読 |



5. 障がいの理解を拡げる取り組み

【障がい福祉ミニ講座】

藤沢市の障がい福祉に関わりの深い専門家や事業者、家族の方々を講師に招いて、3回の講座を実施しました。

第1回 と き 平成26年11月8日（土）

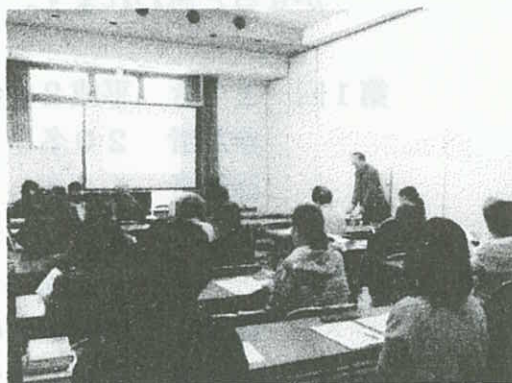
参加者 26名

講 師 石渡和実氏（専門分野：障がい者福祉論、人権論）

東洋英和学院大学

人間科学研究科 人間科学専攻 修士課程教授

内 容 障がいへの理解、インクルーシブな社会を作るという考え方と、当事者が自分の力を自覚して行動できるように支えるという動向など、幅広く学ぶことができました。



第2回 と き 平成27年1月14日（水）

参加者 18名

講 師 船山敏一氏（（社福）藤沢ひまわり所長）

内 容 精神障がい者の自立、特に就労とグループホームでの生活を主題として、講師に船山敏一氏、実体験をお二人の方からお話して頂きました。

自分の病気を自覚し、治療への努力、就労への挑戦に努力されている生々しいお話を聞くことが出来ました。病院ではなく地域で暮らすうえで、グループホームが重要な役割を果たします。その増設のカギが地域住民の理解に負うところが大きく、精神障がいについての理解が地域に拡がることの大切さを学びました。

第3回 と き 平成27年3月24日(火)

参加者 33名

講師 江崎康子氏(市障がい福祉相談員)

内容 発達障がい、自閉スペクトラムについて話を聞きました。意思疎通が難しい自閉症のわが子と向き合った41年間の体験をもとに、乳幼児期、学齢期、成人期に直面する具体的な課題や諸困難をどのように解決されてきたのかをお話頂き、そのことを通じて自閉症についての理解を深めることができました。
講演後の個別相談が多く、大変反響をよびました。

主催:片瀬地区社会福祉協議会

第3回

障がいを知り、地域の役割を考えてみませんか

障がい福祉ミニ講座

41年間、自閉症のわが子に寄り添ってわかったこと

～発達障がい、自閉症を理解する～

発達障がいという、外からは見えにくい障がいがあります。本人は真面目に一生懸命やっているのに、わがままとか、自分勝手だとか、怠け者だと誤解されてしまうことがいっぱいあります。その中でも治療法もまだ究明されていない「自閉スペクトラム」という障がいの「謎だらけの我が子」との41年間(乳幼児期、学齢期、成人期)や、たくさんの当事者や支援者との語り合いから見てきた大切なことをお話させていただきます。なお、講演終了後に個別の相談もお受けします。

《講師》

江崎 康子 氏

藤沢市障がい福祉相談員

神奈川県自閉症協会相談役

日本自閉症協会ペアレント・メンター

日 時 : 3月24日(火)

午前9時30分～11時30分

場 所 : 片瀬市民センター 第2談話室

募集人数 : 25人(先着順)

お申込み : 3月23日(月)まで

電話または来館で 片瀬市民センター福祉窓口

27-2711(平日の8:30～17:00)

後 援 : 藤沢市自閉症児・者親の会

【広報部会】

1. 広報紙社協だより「しあわせ」の発行

「しあわせ」44号

発行日 平成26年6月25日

内 容 「転ばぬ先の杖」の第1回目としてこれから私たちが必要となってくる介護予防・体力維持の大切さや、食事のとり方などを具体的にわかりやすく取り上げました。

また、障がい者の就労現場の見学を行い、障がい者の雇用促進に支援事業者が関心を持っていただきたいと感じたことや、例年の広報学習会では、他の地域団体の広報関係者と一緒に広報紙作成までのプロセスのお話を聞き、広報研修会では市内の小規模多機能型居宅介護施設の「絆」と「花梨」を訪問したことを掲載しました。

また、今回からは”まちのお医者さん”に代わり、片瀬地区にある「憩いの場」を紹介しています。そして、号外として、片瀬地区民生委員・児童委員の担当地域地図を添付し配布しました。

「しあわせ」45号

発行日 平成26年11月25日

内 容 1面には、前号続編の介護予防の口腔ケアを取り上げ、茅ヶ崎にある児童養護施設・白十字社会林間学校と自立支援ホーム「湘南つばさの家」を見学した社協の理事研修を載せました。

また、9月9日に市民会館第1展示ホールにおいて楽しく開催できた敬老会の様子を、総務部会の認知症サポーター養成講座では、認知症についての理解を支援するのは、地域の課題であるなどの受講者の意見や感想を掲載しました。

ふれあい部会の「くりはま花の国」へお出かけしたふれあいお楽しみ事業などの実施内容も記事にさせていただきました。



2. 研修会

と き 平成27年1月29日(木) 10時30分～14時00分

ところ 日本新聞博物館 横浜市中区日本大通り

参加者 7名

内 容 今回は、2014年報道写真展が開催されている期間に、日本新聞博物館を訪問しました。報道の最前線にいる写真記者が国内外で追いつけたニュースの中から、優れた報道写真が多数紹介展示されていました。

280点もの展示には、社会情勢を捉える力、瞬間を切り取る写真記者の”技”を垣間見ることができました。

また、階上の現代ゾーンや歴史ゾーンには、新聞の歴史の旅など多彩な展示室があり、再度新聞の新しい発見の場ともなりました。

3. 学習会

と き 平成27年2月24日(火) 10時00分～12時00分

ところ 片瀬市民センター 第1談話室

参加者 17名(広報部、その他団体より)

内 容 湘南リビング社編集長 川戸真澄さんを講師に、広報紙の文章校正について学習をしました。誤字の直し方や、脱字の入れ方、削除の仕方など文例を示しながら、校正の記号の正しい使用法をくわしく教えて頂きました。

また、見出しの大切さや、写真の活用は、内容の動機づけに大きな影響があることなど、新聞づくりの大変さと楽しさも学びました。

この学習を活かし、皆さんが楽しみに待っていただける広報紙にしていきたいと思います。



↑写真は前年度の様子

【事業部会】

1. 散策事業～柿狩り&紅葉を眺める会～

と き 平成26年11月11日(火) 午前9時～午後3時15分

ところ ① 市内亀井野 関根果樹園

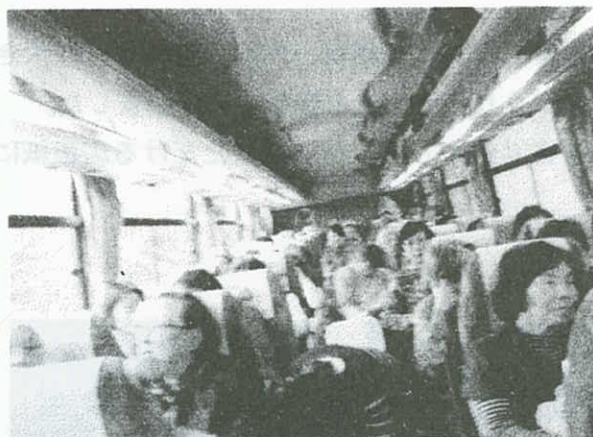
② 箱根散策

参加者 53名

(地域の方38名、従事者11名、看護師1名、事務局2名、運転員1名)

行 程 下諏訪神社前→関根果樹園→箱根路散策→下諏訪神社前

内 容 申し込みは当日、早朝より多くの方が並んでおり、受付開始直後に締切となってしまいました。当日は肌寒く、あっという間の柿狩りでしたが、参加者のみなさんは思い思いに楽しんでいただけたようでした。その後、西湘バイパス休憩所にバスを停め、車内で昼食弁当を取った後、紅葉狩りのために箱根の山々に入ると、小雨模様になってしまいました。途中、立ち寄ったビジターセンターでは、いろいろな資料の見学は勿論のこと、駐車場まわりや屋内から紅葉と共に眼下に広がる芦ノ湖を眺めることができ、とても好評でした。最後に田村総本店に寄り、買い物をしました。みなさんそれぞれ楽しまれたようで、帰りのバスでも元気な声が飛び交っていました。



2. 児童交流会

と き 平成27年2月6日（金）午前9時30分～午後1時30分

ところ 片瀬小学校

参加者 片瀬小学校3年生約140名、各担任4名、校長、地域参加者16名、

従事者 10名

事務局 1名

当日の流れ ①地域協力者からの話はなし（各教室） 10時45分～11時30分

・終戦前後の暮らし（衣食住）について

・昔の片瀬小の様子と子どもの遊びについて

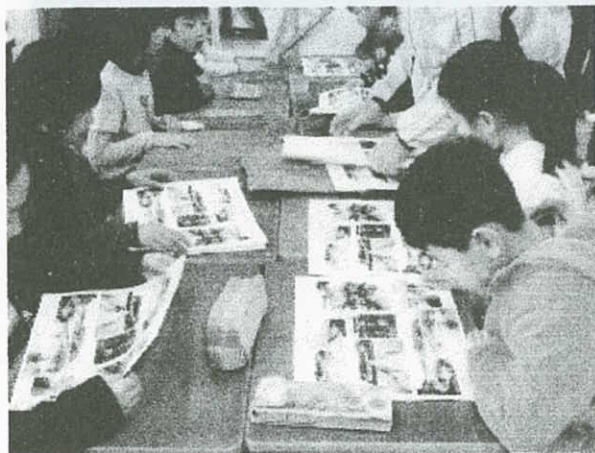
・その他、自由に質疑応答（昔の江ノ電など）

②昔の遊び（体育館） 11時35分～12時20分

・竹馬、ゴムとび、こま、紙飛行機、紙鉄砲、糸電話など

③各グループの児童と一緒に、給食を頂きながら交流

内 容 社協が揃えた写真を主とした資料を各地域協力者（講師）に託し、説明して頂きました。講師によっては個人的にまとめた資料や、遊び道具を持参され、児童の理解に幅を持たせて下さいました。児童たちは、それぞれ興味深く話を聞き、有意義な時間が過ごせたと思います。その後体育館に移動して、昔遊びを体験しました。どの遊びにも列ができ、体育館は楽しそうな声が溢れていました。地域協力者や担当者も、子ども達からたくさんのパワーをもらって帰ってきました。後日、子どもたちからのお礼や感想などのお手紙が届き、受け取った各講師は大変喜んでいらっしゃいました。



3. 片瀬地区ふれあいまつりへの出店～藤沢炒麺～

と き 平成26年10月25日(土)～26日(日)

ところ しおさいセンター 駐車場

従事者 延べ50名(準備日も含む)

内 容 藤沢市内で収穫された小麦粉を使った地粉の麺に、同じく地元の野菜、キャベツ、人参、玉葱、ジャガイモ、もやしと肉を使った具だくさんの「藤沢炒麺」の模擬店も、今年で5年目になりました。「片瀬地区ふれあいまつり」にもすっかり定着し、常連さんも多くなりました。味の方も好評で、25日は268食、26日は174食をお昼前に完売しました。

売上金は132,600円でした。ご協力ありがとうございました。



【ふれあい部会】

1. 地区敬老会

と き 平成26年9月9日（火）

ところ 藤沢市民会館第1展示集会ホール

参加者 178名（対象者174名 付添い人 4名）

鈴木市長、来賓30名、評議委員 37名

民生委員29名、事務局10名、交通3名、看護師1名

内 容 高齢者の長寿をお祝いするため開催しました。平成26年度からは市内統一的に満83歳からのお招きとなりました。83歳以上の方174名と付添い4名、合計178名をお招きして、ご長寿のお祝いの式典はつつがなく進みました。鈴木市長、地区自治連会長等のご祝辞を頂き、参加者皆さまから笑みがこぼれていました。祝い御膳の後はお楽しみ演芸会と続き、楽しいひと時をお過ごしの様でした。男性の参加者が年々増加していることは、とてもうれしいことです。次回もお待ちしております。



2. 敬老事業

内 容 満80歳（215名）を迎えた皆様に、お祝いの羊羹を民生委員がお届けいたしました。満100歳（4名）をお迎えの方には、藤沢市長の訪問に併せ、お祝金を差し上げました。

早場

従事者 10名

翌日は、片瀬しおさいセンターにおいて青空のもと掘り出し市を

お買い上げ頂きました。

4. ふれあいお楽しみ事業

横須賀くりはま花の国と葉山すかなごっそ

日 時	平成26年10月7日(火)
参加者	40人
従事者	12人
参加費	1,000円(参加者・従事者共に同額)
乗り物	大型バス1台
内 容	くりはま花の国へ散策。少し風がありましたが、お天気は上々でした。お目当ての一面のコスモスは残念ながら、前々日の台風で見る影がありませんでした。昼食は敷地内にある和風レストランを予約しました。やはり、座敷席よりも、椅子席を希望される方が多い状況でした。帰路の途中に寄った市場で、楽しい買い物をして、予定時刻には片瀬に帰ることが出来ました。 課題もありましたが、やはり皆さまはバスの旅、遠足が大好きなようですので、今後も工夫しながら続けたいと思います。



お楽しみ昼食会

日 時	平成26年11月7日(金)
場 所	片瀬市民センター・ホール
参加者	8人
従事者	12人
参加費	500円(参加者・従事者共に同額)
内 容	平成26年度は敬老会の参加年齢が満83歳からとなりました。従来通りであれば、敬老会に参加できた80歳、81歳、82歳の方々を対象に昼食会を開催いたしました。内容は敬老会と同じようなメニューと、おもてなしをご用意しました。回覧などで周知し募集期間も十分に設けましたが、参加者は予想以上に少ない結果に終わりました。この現実を受け止め、今後に向けて根本から見直すことにしていきたいと考えております。

【その他の事業】

1. あり方検討会

超高齢社会、核家族化が進む地域社会の中で、高齢や障がいなどにより生活しづらい状況や子育てに不安を感じられている方々が増えてきています。地域福祉の活動を担う地区の社会福祉協議会の役割は、ますます重要となってきました。

こうした中で、本協議会では「片瀬地区社協あり方検討会」（各部会の理事・評議員から数名ずつ選出・6月から11月の期間で6回）を設け、理事や評議員の役割、組織のあり方など、今後のあり方についてまとめました。

あり方検討会では、自治会との連携強化や高齢、障がい、児童、子育て、生活支援などの分野別に課題の検討や活動を積み上げるために、役員や部会構成の見直しなど、社協の組織改正も視野にした議論を行いました。

この議論の結果を理事会へ報告して、2月に評議員会を開催して、評議員と意見交換をいたしました。そこでの意見を踏まえ、3月に臨時総会を開催して、組織の改正等に必要となる会則変更を行いました。

今後の方向性は臨時総会で確認され、次ページのとおりとなりますが、平成27年度の計画についてはこれを基に骨格を作成しており、具体的な部分については、今後の各部会等での活動の中で検討していく予定としています。

あり方検討会委員 秋里素子（ふれあい部会）甘粕克巳（総務部会）小堀暢子（事業部会）

（五十音順・敬称略）佐藤安男（事業部会）澁谷晴子（広報部会）正田恵美子（ふれあい部会）

杉山 義子（会長）高橋豊子（広報部会）新見正彦（総務部会）

山口晃（事業部会）山下伊津子（ふれあい部会）

期 間 平成26年6月19日（木）～11月20日（木）（全6回）

日 程	テーマ	出席者数
第1回 6月19日（木）	検討会の進め方等	11名
第2回 7月30日（水）	社会環境、地域、家族の実態の変化 これまでの活動、これからの活動で考慮すべき点	8名
第3回 8月28日（木）	地域課題の系統的な分析と対応ができる組織①	9名
第4回 9月25日（木）	地域課題の系統的な分析と対応ができる組織② 財政について①	9名
第5回 10月29日（水）	財政について②	10名
第6回 11月20日（木）	あり方検討会のまとめについて	9名
評議員会	2月23日（月）	
臨時総会	3月26日（木）	

片瀬地区社会福祉協議会の今後のあり方

少子高齢化、核家族化が進む地域社会のなかで、高齢、障がいなどにより生活しづらい状況を抱えている方々、子育てに不安を感じられている方々などが多くなっていると感じます。特に高齢社会は、団塊世代の方々が75歳を迎える2025年ごろからピークになります。

「地域でその人らしく暮らし続ける」いわゆる地域福祉を活動の目的にしている地区の社会福祉協議会の役割は、ますます大変重要となっています。

こうしたなかで、これからの地域福祉の充実に向けて、片瀬地区社会福祉協議会（以下「片瀬地区社協」という）のあり方について検討をしてきました。検討にあたっては、これまでの活動の歴史、経過を大切にしながら、今後の高齢社会、障がい、子育てなどの具体的な課題へ積極的に対応するための組織（部会、理事、及び評議員）と有効な予算の使い方などの財政課題をテーマとしました。

1. 今後の活動の方向性について

「元気のない人にもっと光を！元気な人はさらに元気に！」、つながりのない人との接点を探求するために。

- ① 元気な人がもっと元気になれるよう、おでかけ事業、介護予防など、従来からの企画については、参加者の感想や意見、どういう人が参加しているか、費用負担は適切かななどを絶えず精査して推進します。
- ② 周囲とつながりのない人や課題を抱えている人とどのようにつながりをつくるのか、個別的な悩みや課題の把握と関係機関との連携（つなぎ）に取り組みます。

2. 地域課題へ対応ができる組織について

1) 部会のあり方について

課題分野別に次の通り部会を編成することにより、これまで実施されてきた事業の担当部会を明確にします。また、新たな部会編成のもと、地域福祉課題の把握・検討、事業の企画（事業の見直しも含む）・実施等において、より具体的かつ効果的に取り組みます。

《部会の構成》

① 高齢者福祉部会

高齢者福祉にかかわる課題の把握・検討、事業の企画・実施

② 障がい福祉部会

障がい福祉にかかわる課題の把握・検討、事業の企画・実施

③ 青少年・子育て福祉部会

青少年・子育て福祉にかかわる課題の把握・検討、事業の企画・実施

④ 生活支援部会

身近な生活支援活動にかかわる課題の把握・検討、解決に向けた事業の企画・実施

⑤ 広報部会

地域に福祉にかかわる普及啓発および片瀬地区社協活動の広報

※新たな課題への対応の検討や福祉委の部会及び全体にかかわる企画立案は、正副会長会で担当する。

2) 理事・評議員のあり方について

① 理事

理事会は、定例的に開催し、情報交換及び部会で企画した事業等の検討の場となっています。さらに、身近な地域課題への取り組みのためには、地域住民の直面する課題を絶えず検討する場として位置づけ、地域活動の基礎となる自治会や自治町内会連絡協議会との関係をより深めていくことが求められています。

具体的には、部の再編と併せて地域課題を検討する場となるよう理事会運営を見直し、理事会は自治会・町内会組織の代表者を加えた構成とします。

② 評議員

片瀬地区社協の方向性を考え、地域福祉の課題や活動（所属しない部会活動）共有を図ることができる仕組みづくりに取り組むため、従来の評議員を次のとおり見直します。

ア 位置づけ

- ・「福祉委員」への名称の変更

- ・会議の開催

総会と福祉委員会（年1回～2回開催）において、片瀬地区社協の方向性、各部会活動の情報の共有化を図ります。また福祉委員会、及び部会での議論内容も理事会へ報告し、検討事項とします。

イ 役割

- ・出身母体とのパイプ役

福祉委員には、片瀬地区社協の活動への理解を広め、協力を得るために、福祉委員各々の出身母体（各自治・町内会、老人会等）との太いパイプ役が求められます。

- ・地域の見守り役

日常生活や近所づきあいの中で把握した地域福祉課題を、片瀬地区社協の活動に反映させることが求められます。

また、生活に困難な状況を把握したときの民生委員児童委員、各関係機関への

つなぎの役割が期待されます。

3. 片瀬地区社協の財政について

現在、片瀬地区社協の活動の財源となっている全世帯から拠出を得ている会費や、住民から寄付を受けた品物を販売する福祉バザーなどで捻出した貴重なお金や、市社協や愛の輪基金から交付される補助金を、片瀬地区の地域福祉の充実に一層役立たせることが大切です。

各事業の個々の予算、参加費（参加者の自己負担）並びに基金のあり方について検討を進めていきます。

1) 個々の事業における予算の考え方について

- ・対象者（参加者）のバランスの考慮
- ・事業目的、必要性等、事業の企画段階での考慮

2) 参加費（参加者負担）の考え方

- ・食事代、おみやげ等本人の為の費用は本人負担
- ・お食事、お菓子、お茶が事業の目的となる場合への考慮

3) 地域福祉推進のための基金の考え方と実際の運用について

- ・片瀬地区社協の新規事業への活用
- ・地域諸団体の福祉活動への助成

4. 片瀬地区社協と行政・市社協との関係について

地域のボランティアへの期待が語られる機会が多くなっていますが、地域の任意団体である地区社協の役割にはおのずと限界があります。私たち片瀬地区社協の役割について、介護保険の改正も見守りながら、市、市社会福祉協議会と協議、検討を深めていきます。

2015年3月26日

片瀬地区社会福祉協議会 理事会

2. かたせ・にこにこ広場

第1以外の木曜日、10時～15時、片瀬地区ボランティアセンターにおいて、子育て支援の活動があり、地区社協として支援しています。外遊びがまだできない赤ちゃんや小さいお子さんの遊び場として利用されたり、親同士の交流や発達等の相談の場として役立てていただいています。また、年に数回、健康講座や絵本読み聞かせなどの催しも実施しています。平成26年度は、年間43回、延べ1,462名の参加がありました。



3. 支援活動（福島県大熊町へ）

東日本大震災による原発事故で被災した大熊町は、事故から4年以上経過した現在においても、国の具体的な復興へ取り組みができていない状況です。町は、平成24年12月において「5年間は帰町しない」との判断を行っています。その大熊町に、今後の復興に向けた活動の支援金として片瀬地区社協から寄付いたしました。

支援金 50,000円

4. 日赤社資の募集

日本赤十字社は、国内外の救援活動を始め、地域のニーズに応じた福祉ボランティア活動、その他幅広く事業を展開しています。事業資金は、赤十字の事業の賛同者から、自治・町内会を通じて寄せられた「社資」により支えられています。

募集期間 平成26年5月～6月

地区実績額 1,305,060円

5. 赤い羽根共同募金運動の推進

地域福祉の増進を図るため、県民の助け合いの心を振興し、その結晶である寄付金は、地域のなかでさまざまな活動を展開する民間の福祉団体を支える資金として、有効に活用され、福祉の向上に寄与されます。募金は自治・町内会を通じてご協力をいただきました。

募集期間 平成26年10月～

地区実績額 1,581,799円

6. 年末助け合い募金運動の推進

地域の寝たきり、認知症、一人暮らしの高齢者、障がい者など、介護を必要とする人々や、ひとり親、子育て中の世帯、在住外国人など生活基盤が弱く支援を求める人々など誰もが住み慣れた地域で安心して生活をしていくためには、行政の施策と相まって、地域の問題を、お互いに協力し合い解決していく取り組みや、年間を通じた計画的な援助が必要なため、年末助け合い運動が展開されています。募金は自治会・町内会を通じて協力をいただきました。

募集期間 平成26年12月～

地区実績額 631,662円

7. ねたきり高齢者見舞品

ねたきりの高齢者の方々に少しでも快適な生活を送っていただけるよう、民生委員を通じて23人の方に洗剤をお贈りしました。

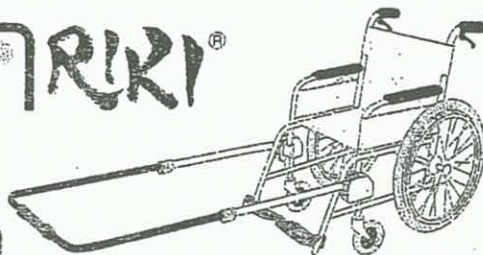
8. 車椅子の貸し出し

通院・外出・一時退院・墓参などの利用に社協の車椅子を貸し出しています。今年度の利用件数は34件でした。車いすは現在9台保有しております。段差を乗り越える際などの操作が少しでもスムーズになるよう、すでにある車いすに簡単に着脱できるけん引装置「JINRIKI」を昨年購入しました。

「JINRIKI」を含め、お借りになりたい方は片瀬市民センター福祉窓口までお越しください。

JINRIKI®
JINRIKI 組立

動画公開中
www.jinriki.asia/



9. 片瀬地区新年賀詞交歓会

片瀬地区自治町内会連絡協議会との共催事業として実施しました。今年は150名の方が参加されました。